

便秘薬 分類・成分名

特徴

副作用

留意すべき事項

便秘薬 分類・成分名		特徴	副作用	留意すべき事項	
緩下剤	刺激性下剤	ピサコジル	大腸を刺激し腸の運動を活発にして排便をうながすとともに、結腸内の水分吸収を抑制し、便の容積を増大させ、蠕動運動を促進させる。 大腸で作用しなければならない薬なので、胃酸で分解したり、胃粘膜に刺激があることがないよう、腸溶製剤になっているものが多い。腸刺激薬の中ではもっとも効き目の良い薬。	腹痛、吐き気、嘔吐、腹鳴などの症状など	繰り返し使用すると大腸の感受性が低下し、効果が減弱する。 腸溶製剤では、制酸薬や牛乳(弱アルカリ)と同時に服用すると胃で溶けて、効果が減弱する。 尿の色が赤～橙色に変色することがあるが心配要らない。
		センノシド	飲み薬の効果の発現は8～10時間後。 医療用のプルゼニド。生薬のセンナやダイオウの緩下成分。大腸で腸内細菌によって代謝されて緩下作用を示す		
		アロエエキス	痙攣性便秘の人には使用しない。 アロエに含まれるバルバロインなどが腸を刺激する		
		ピコスルファートナトリウム	医療用のラクソベロン。		
	膨潤性下剤	プラントゴ・オバタ種子	オオバコ科の植物で、食物繊維を多く含む。 腸内で水分を吸収して膨潤し、便の容積を増大させるとともに、便を軟化させる。特に痔や肛門裂傷、直腸手術後の患者に好ましいとされている。日本では、サイリウム種皮またはサイリウム種皮由来の食物繊維と称して、取り過ぎたコレステロールの吸収をおさえ、おなかの調子を整える機能があって、「コレステロールが高めで気になる方」や「おなかの調子が気になる方」の食生活の改善のための特定保健用食品として利用されている。	特になし	効果を高めるには、十分な量の水で服用すると良い
浸潤性下剤	ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DBS)	界面活性作用により便の表面張力を低下させ、硬い便に水分を浸透しやすくして便を軟化させ、便のすべりを良くして、無理なく排便を助ける。	口や喉の渇き、吐き気、嘔吐、腹痛、腹部不快感など		
塩類下剤	酸化マグネシウム	マグネシウムなどの無機塩類は吸収されにくいので、腸内の浸透圧が上昇し、腸内に水分が移動することで便を軟化させる。また、胃酸を中和する作用があるので、少量では制酸薬としても使用される。医療用としてもよく使われている。	量が多いと軟便、下痢。	腸内でキレート形成し、吸収が妨げられる薬剤があることを伝えておくこと。	
漢方製剤	防風通聖散	防風・黄ごん・大黄・芒硝・麻黄・石膏・白朮・荊芥・連翹・桔梗・山梔子・芍薬・当帰・川きゅう・薄荷・滑石・生姜・甘草の18成分から構成され、体内の老廃物を発汗、利尿、排便 などにより排泄し解毒する作用がある。	胃の不快感や吐き気、腹痛や下痢など。また、麻黄のエフェドリンによる動悸や不眠、発汗過多などもまれにみられる。甘草が過量になった場合は偽アルドステロン症。	体力があり、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちな人に向けた処方。逆に、体の虚弱な「虚証」の人、胃腸の調子の悪い人、また、発汗の多い人には向かない。他に甘草を含有する薬を飲んでいないか、確認が必要。	
	大黄甘草湯	その名が示すように大黄と甘草の2種類からなる。“大黄”は中国原産の薬用植物で、アントラキノン系の大腸刺激性の下剤成分を含む。もう一つの“甘草”には緩和作用があり、便秘にともなう腹痛や排便時の痛みをやわらげる。	胃の不快感、食欲不振、吐き気、腹痛、下痢など。甘草が過量になった場合は偽アルドステロン症。	どちらかという実証(体力充実)向けだが、証(体質)にはそれほどこだわらずに用いることができる。他に甘草を含有する薬を飲んでいないか、確認が必要。	
浣腸薬	グリセリン	即効性が期待できる。1回目は排便に失敗することが多く、イチジク浣腸は2本入となっている。	たちくらみ、肛門部の熱感、腹痛、不快感、残便感等	・繰り返し使用すると大腸の感受性が低下し、効果が減弱する	